



# 薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2023年  
No.4  
事例2

疑義照会・処方医への情報提供

## 投与量



### 事例

#### 【事例の詳細】

患者にラゲブリオカプセル200mg 1日800mg 1日2回が処方された。ラゲブリオカプセル200mgの1日量は1600mgであるため、処方医に疑義照会した結果、1日1600mg 1日2回に変更になった。

#### 【推定される要因】

処方医が、誤って1回量を1日量として処方したと考えられる。

#### 【薬局での取り組み】

当薬局で導入しているレセプトコンピュータは、入力された薬剤の投与量をチェックするシステムが搭載されているが、投与量が過少であるとチェックがかからないため、処方箋を監査する薬剤師は、処方監査支援システムに依存することなく、自らの薬学的知見に基づき用量を確認している。



### その他の 情報

#### ラゲブリオカプセル200mgの添付文書 2023年4月改訂（第6版）（一部抜粋）

##### 6.用法及び用量

通常、18歳以上の患者には、モルヌピラビルとして1回800mgを1日2回、5日間経口投与する。



### 事例の ポイント

- ラゲブリオカプセル200mgは2021年12月24日に特例承認されて以降、国が購入し、厚生労働省が保有するものを配分する形での流通が行われていたが、2022年8月18日付で薬価収載され、9月16日から一般流通が開始された。
- 本事業には、ラゲブリオカプセル200mgの処方量の間違いを発見し、疑義照会や処方医への情報提供を行った事例が多く報告されている。それらの事例の「推定される要因」には、「一般流通が開始された直後であり、処方医の薬剤に関する知識が不十分であった」や「ラゲブリオカプセル200mgを処方したことがない医師からの処方であった」などが挙げられている。
- 薬価収載されて間もない新医薬品が処方された際は、処方医、調剤する薬剤師ともに薬剤に関する知識が不十分である可能性を認識し、薬剤師は、添付文書やインタビューフォーム、製薬企業から提供される適正使用ガイドなどから必要な情報を収集、確認したうえで調剤を行うことが重要である。
- 本事業の第28回報告書（2023年3月公表）の「Ⅱ 集計報告」には、2022年7月～12月に報告された事例を集計した結果を掲載している。「【4】販売名に関する集計」の「（1）新規収載医薬品」には、事例に報告された新規収載医薬品を示した。本報告書では、ラゲブリオカプセル200mgの報告件数が最も多かった。

[https://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/pdf/report\\_28.pdf#page=36](https://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/pdf/report_28.pdf#page=36)



公益財団法人 日本医療機能評価機構  
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル  
電話：03-5217-0281（直通） FAX：03-5217-0253（直通）  
<https://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。